



大阪アニメーションカレッジ専門学校 専門課程

平成28年度 学校関係者評価報告書

(基準日2017年3月31日)

2017年9月



学校法人 大阪創都学園

大阪アニメーションカレッジ専門学校

はじめに

本校では、学校教育法及び学校教育法施行規則に則り、学校評価（自己評価・学校関係者評価）実施に向けた体制作りを行ってまいりました。そして現在、文部科学省策定の『専修学校における学校評価ガイドライン』をもとに、学内におけるPDCAサイクルの確立を目指し自己評価を行っています。より充実した、教育環境と在校生・卒業生のサポート体制確立に向けさらなる努力をしていく所存でございます。

本校関係各位の皆様におかれましては、さらなるご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

2017年9月

学校法人大阪創都学園
大阪アニメーションカレッジ専門学校
学校長 井原 延治

<学校関係者評価委員会>

- 地域関係者 瀧川紀征 吹田商工会議所 副会頭
- 教育関係者 東龍太郎 科学技術学園高等学校 通信課程 教諭
- 業界関係会社 三原淑治 エム・アイ・プランニング株式会社 代表取締役
- 卒業生 北原優希 アニメ声優コース 5期生（2008年度生）
- 学校関係者 井原延治 大阪アニメーションカレッジ専門学校 学校長
西尾拓也 大阪アニメーションカレッジ専門学校 副校長
城将敏 学校法人大阪創都学園 事務長

<実施概要>

- ・自己評価報告書実施概要についての説明
- ・自己評価報告書の評価項目についての解説
- ・評価者の方々からのご意見及び質疑応答

大阪アニメーションカレッジ専門学校 専門課程 2016年度自己評価表

I 平成 28 年度自己評価報告書について

- ・学校長挨拶
- ・自己評価報告書についての解説
- ・自己評価報告書において特筆すべき項目について個別に説明(下記参照)

1. 教育理念・目的・人材育成像

□1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)

「個性を磨き、能力を高め、技術を身に付ける」という理念のもと、業界における必要とされる人物の育成に邁進している。各専門分野の特性を理解しているカリキュラム構成にするため授業再構築のスピードも速い。

□1-2 学校における職業教育の特色は何か

それぞれ専門分野の技術的な習得は当然のことながら大切なものだが、その創り上げるために必要な人としての共有・協調・チームワークを築くことを優先する教育を目指している。

□1-5 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか

各学科それぞれに明確な育成カリキュラムがあり、その域を達するように努力している。但し、この分野の活躍の場となるのが東京中心であるため、学校・学生・保護者共々に個々の条件を踏まえたかたちで進めている。

2. 学校運営

□2-6 目的等に沿った運営方針が策定されているか

毎年、年度当初の職員会や講師会を通じて方針等が打ち出しされている。年間計画をしっかりと行い、随所で学生にとって有益な参加・研修関連も適正に受け入れるかたちで教員・講師が協力できる体制が保たれている。

□2-13 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

学校関連の連絡等に関しては、WEB サイト、SNS 等を通じて、学生、講師、学校職員等に様々な情報が共有できるようになっている。今後も理想的なシステム構築が検討できる余地があるので調整を進めて行く。

3. 教育活動

□3-21 職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか

業界関係各社との講師派遣、情報のやり取りを行い、常に現場との接点を持つ努力をしている。ただ明確に会合を行い意見を取り入れているというポイントに関しては、今後、意識を持って努力できるところだと考えている。

□3-26 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか

□3-27 職員の能力開発のための研修等が行われているか

上記 2 点の専門分野における研修に関しては、外部からの講師を招いたり、研修会に参加しているのだが、全員ができていのかどうかという質問に対しては、しっかりと計画されていない実状がある。この部分に関しては、時間を設け、積極的な計画が必要だと考えている。

4. 学修成果

□4-30 退学率の低減が図られているか

退学低減のための防止策は、入学当時より工夫がされている。担任制、入学当初のディスカッション、相談しやすい雰囲気づくりとして教務室のオープン化、保護者懇談、講師のリアルタイムな報告共有等、そして昨今、数多い精神疾患等の対応も含め協力体制はしっかり固めている。より「気づきの精神」を努力していきたい。

□4-32 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか

就職指導は、在校生だけではなく、卒業後もしっかり相談できる窓口として存在させている。就職後もその足取りを理解していくことによって、次の就職指導にも役立つものが多い。先方企業との繋がりも含め、学生達のプラスに働くようにしていきたい。

5. 学生支援

□5-39 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか

高校 2 校との提携あり。こちらが用意したカリキュラムフォーマットを卒業生が教えに行くことによって、その学校に制作アニメーションやイラストが定着した例がある。また、現在も他校で卒業生数名で、高校の専科的な教育として声優・アニメーションの分野を提供している。

□5-40 関連分野における業界との連携による卒業後の再教育プログラム等を行っているか

卒業後、「フォーエバーサポート」という愛称で、再教育プログラムを実施、作品展・芝居公演の協力等を行っている。また、今も行っている学校行事に対して、卒業生たちに協力を依頼、これも再教育プログラムとしての内容を含むものだと考える。その実施方法も検討できる余地はある。

6. 教育環境

□6-42 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか

教育に必要とされる実習施設や備品に関しては、新規導入を毎年検討している。企業に派遣するというかたちのインターンシップは難しいが、声優学科は内外からの録音や出演依頼、アニメーションのコンテンツ制作プロジェクトへの参加、マンガ・イラスト系には、より多くのコンテストやプレゼン形式の研修を用意している。海外研修は、金額的なものもあるので有志参加による課外活動として取り組んでいる。

9. 法令等の遵守

□9-54 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか

学校として自己評価に関しては、ここ数年行っており、授業推進やカリキュラムの改善を考えたものが殆どになっていた。学校評価のガイドラインを遵守した形態は、今回の 2016 年度に関しての振り返りからスタートさせている。今後、これに準じたかたちで結果公開と合わせて取り組んでいきたい。

10. 社会貢献・地域貢献

□10-58 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか

実質的に地域から依頼されるものとして保育園、幼稚園、小学校～高校、吹田市等、ありとあらゆるものに対応はしているのだが、公開講座や教育訓練の受託は積極的には行っていない。公開講座的なものとしては、オープンキャンパス的なものになる。この分野に関しては、今後検討したい。

Ⅱご質問

問：地方から出てひとり暮らしをしている学生の保護者に対しては、どのような情報発信をおこなっているのでしょうか？

6月～7月に保護者懇談会を実施しています。懇談会に来られない保護者に関しても、一度は電話でも保護者の方とお話をするようにしています。また、後期には学生・保護者・担任での3者面談等も行い、コミュニケーションを取るようにしています。月ごとに各学生の出席率を明確にして集計、一定の基準を下回る場合は、保護者の方に毎月、その状況が判るように情報を発信するようにしています。

問：声優になりたいという憧れが多いように思いますが・・・。

特に「アニメ声優」というアニメーションのキャラクターボイスに憧れる学生が多いのは事実です。この分野は、毎年、オーディションによって、いろんな事務所(養成所)から、それぞれの実力に見合う条件提示があり、彼らは東京または大阪地元に行くこととなります。しかし、今は、夢叶える卒業生も数多く出ています。非情な競争社会ではありますが、それはどの分野も同じだと思います。中には、ナレーションやMCという分野に進みたいという「声」の仕事を望むものも増えています。また、声優から事務所所属の役者へ進みたいという学生も多くいます。

Ⅲご意見

□声優という「人間教育」だと思っているので良い子に育ててあげて欲しい。なりたいと思うものに向かって行くことは、人生にとって決して無駄にはならないと思っています。

□マンガを描いて仕事をするということに関しては、全く判らないので、自分も勉強していきたい。

□地域へのイベント参加や清掃ボランティア、吹田市からのコンペ等、積極的に参加頂いているので、今後も頑張りたいと思っています。

□保護者目線で学生を捉え、特に地方から大阪に来させている保護者には、その様子を伝えてあげて欲しい。やはり、子供の事はいくつになっても心配なものです。宜しくお願いします。